NIE実践報告

１．タイトル：社説の達人

２．学校名

上越市立直江津中学校

３．実践者名（代表者名）

白井広一

４．学年

第１学年

５．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　１３０人

６．単元（本時の学習課題）名

「真実を語る」筆者の思いを読み取ろう

７．目標（狙い）

・文章を要約し、筆者の主張をまとめることができる。
・読み取った主張や要約の方法を発表し合い、違いを知ることができる。

８．評価の視点

・選択した方法に則って筆者の主張を要約できたか。
・それぞれの方法の特徴を理解できたか。

９．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

・「クジラたちの声」（教科書教材：光村図書）４時間・「ちょっと立ち止まって」（教科書教材：光村図書）３時間・「調べたことを正確に伝えよう」５時間　合計１２時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①１学期に行った説明文の読み取りで学習した内容を復習し、要約の方法を理解する。（２時間）
②要約の方法を選択して社説を通読し、筆者の主張を要約する。要約の方法に応じて工夫したポイントをまとめる。（２時間）
③要約の方法を示し、分かりやすく説明する。発表を聞き、それぞれの方法の特徴をつかむ。（１時間）

（留意点）
・要約の方法を、具体例を示しながら復習する。
・要約の方法を抽象化して理解できるようにする。
・発表を聞いての気付きが生きるよう留意する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・採用した記事（日本人のノーベル賞受賞）が直近の話題であり、テレビなどでも大きく取り上げられた内容だったので、興味をもって取り組めた。
・授業後の感想からは、「どう要約したか」も発表したことで、自分自身の取組に自信をもてた様子がうかがえた。

12．成果と課題

・新聞記事はその時々の新鮮な話題なので、生徒にとって実感がもてる教材であり、学習意欲を喚起する要素となる。
・教材として使用する場合、授業の意図に合う、あるいは生徒が興味・関心をもつ記事が常に取り上げられているわけではないので、年間指導計画の中で時期を固定しづらい面がある。